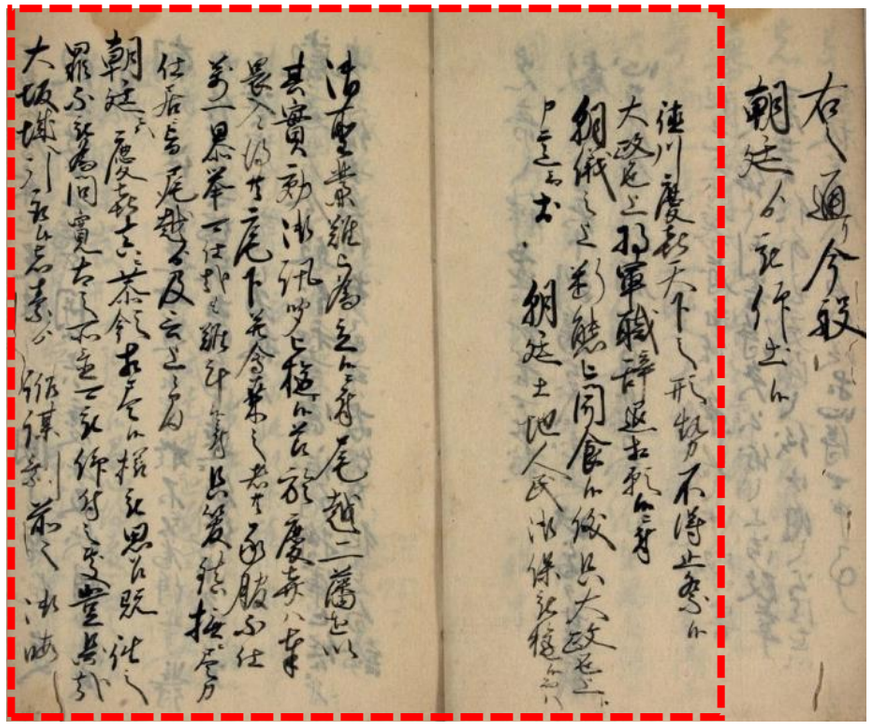
徳川慶喜追討令



1868 年（明治 1）01 月 26 日「徳川征伐御触書之写、神祇御改御触書之写」

松田三左衛門家文書（当館蔵）デジタルアーカイブへ

翻刻文

徳川慶喜天下之形勢不得止察候、
大政返上将軍職辞退相願候ニ付、
朝議之上断然被聞食候処、只大政返上ト
申而已ニテ於　朝廷土地人民御保被遊候テハ、
御聖業難被為立候ニ付、尾越二藩を以
其実効御訊聞被遊候節、於慶喜ハ奉
畏入候得共、麾下并会桑之者共承服不仕、
万一暴挙可仕哉モ難計候ニ付、只管鎮撫ニ尽力
仕居候旨、尾越より及言上候間、
朝廷ニハ慶喜真ニ恭順相尽候様、被思召既往之
罪不被為問寛太之所置可被仰付之処、豈図哉
大坂城へ引取候者素より詐謀、剰前之御暇

解　説

1867 年（慶応 3）12 月、朝廷では西郷隆盛や公家の岩倉具視などが中心となって**王政復古の大号令**を出し、天皇を中心とする政府の樹立を宣言しました。また、**徳川慶喜**に官職や領地の返還を命じました（辞官納地）。

1868 年（明治 1）1 月、これに不満をもつ旧幕府軍と新政府軍との間で鳥羽・伏見の戦いが起こり、勝利した新政府軍は徳川慶喜を朝敵として追討し、軍を進めました。同年 4 月、西郷と勝海舟の交渉により、江戸城は無血で新政府軍に明け渡されました。

一部の旧幕臣や会津藩はなおも抵抗し、東北諸藩も奥羽越列藩同盟を結成しましたが、次々と新政府軍に敗れ、同年 9 月に会津藩も降伏しました。1869 年（明治 2）5 月には箱館を占領していた榎本武揚らが降伏し、**戊辰戦争**と呼ばれる一連の戦いは終結しました。

福井とのかかわり

戊辰戦争が勃発すると、松平慶永（春嶽）は岩倉具視らに積極的に働きかけるなどして、内戦を阻止するために懸命な努力を続けました。慶永は政府に対する建白書の中で「慶喜が罪を認めて謹慎しているのに東征を進めるならば、過激な旧幕臣は憤激のあまり、「幾千人一心」となるのに対して、官軍は諸藩の入り交った軍隊で「百人百心、千人千心」の状況では勝敗は分からない。また、こうした内戦は「天下人心の向背」にも関わることで、速やかに官軍の進撃を停止してほしい」と力説しました。

ところが奥羽越列藩同盟が成立すると、福井藩も会津藩征討のために出兵を命じられました。福井藩は慶永を筆頭に政府軍の東征に強く反対していましたが、東北諸藩が同盟を結成して政府に反抗する動きに対して、やむなく出兵の準備に着手しました。

その後、福井藩は長岡・庄内・会津藩を相手に各地で激闘を繰り広げました。

資料の注目ポイント

資料は 1868 年（明治 1）に出された触書を書き残したものと考えられます。紹介している部分は「徳川慶喜追討令」と呼ばれているものです。

1868 年（明治 1）1 月 7 日、新政府は徳川慶喜を追討するよう各方面に命じました。

内容を読むと、「慶喜は政権を返上して将軍職を辞退したものの朝廷に土地や人民を返上していない」、「朝廷は慶喜に対して寛大な処置を命じたにも関わらず会津藩や桑名藩を率いて天皇のいる京都へ兵を進めた」、「慶喜の罪状は明白であり追討を命じる」とあります。

本文中に「尾越二藩」とありますが、これらは尾張藩と越前藩のことです。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「徳川征伐御触書之写、神祇御改御触書之写」	松田三左衛門家文書（当館蔵） 資料番号 A0169-00041	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-324655-1-p4　（徳川慶喜追討令）

参考文献等

『王政復古』（久住真也　2018 年　講談社）
『徳川慶喜』（家近良樹　2014 年　吉川弘文館）
『福井県史　通史編 5　近現代 1』（1994 年　福井県）
『福井県文書館資料叢書 7　越前松平家家譜　慶永 4』（2010 年　福井県文書館）
『復古記　第 1 冊』（東京大学史料編纂所　2007 年　東京大学出版会）
『戊辰戦争全史　上』（菊地明・伊東成郎　2018 年　戎光祥出版）

中高生のための幕末・明治の日本の歴史事典　http://www.kodomo.go.jp/yareki/theme/theme_06.html　（2018 年 7 月 14 日閲覧）
近代国家日本の登場　http://www.archives.go.jp/exhibition/digital/modean_state/contents/boshin-war/index.html　（2018 年 7 月 14 日閲覧）